

米国 自動車価格の下落が全体を押し下げ(06年8月生産者物価)

発表日：06年9月19日(火)

～新型モデルの価格引き下げが寄与～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

	生産者物価 (Producer Price Indexes)										
	最終財		コア		エネルギー		中間財		原材料		<参考> 輸入物価
05/08	+0.5	(+5.3)	+0.0	(+2.6)	+3.0	+0.5	▲0.1	+3.5	+4.6	+0.1	65.0
05/09	+1.4	(+6.9)	+0.2	(+2.6)	+5.4	+2.3	+1.0	+10.5	+5.6	+0.9	65.6
05/10	+0.8	(+5.9)	▲0.3	(+1.8)	+4.3	+3.0	+1.4	+5.7	▲1.5	+1.0	62.3
05/11	▲0.5	(+4.4)	+0.1	(+1.7)	▲3.1	▲1.3	+0.4	▲1.4	+2.4	▲0.1	58.4
05/12	+0.7	(+5.4)	+0.0	(+1.4)	+2.4	+0.3	+0.4	▲3.5	+1.9	+0.0	59.4
06/01	+0.3	(+5.6)	+0.4	(+1.3)	+0.1	+1.0	+0.9	▲0.8	▲0.2	+0.3	65.5
06/02	▲1.2	(+3.9)	+0.3	(+1.7)	▲4.5	▲0.5	+0.3	▲8.4	+3.1	▲0.7	61.9
06/03	+0.4	(+3.6)	+0.2	(+1.7)	+1.5	+0.2	+0.4	▲2.6	+1.3	▲0.3	63.0
06/04	+0.9	(+4.1)	+0.1	(+1.5)	+4.0	+1.0	+0.6	+2.6	+5.3	+0.1	70.2
06/05	+0.1	(+4.5)	+0.3	(+1.5)	+0.5	+0.8	+0.7	+0.8	+5.0	+0.7	71.0
06/06	+0.5	(+4.9)	+0.2	(+1.9)	+0.7	+0.7	+0.8	▲1.7	+1.7	+0.4	71.0
06/07	+0.1	(+4.2)	▲0.3	(+1.3)	+1.3	+0.5	+0.7	+3.1	+1.3	+0.0	74.4
06/08	+0.1	(+3.7)	▲0.4	(+0.9)	+0.3	+0.4	+0.4	+2.2	▲2.8	+0.5	73.1

(出所) 労働省 (Department of Labor)

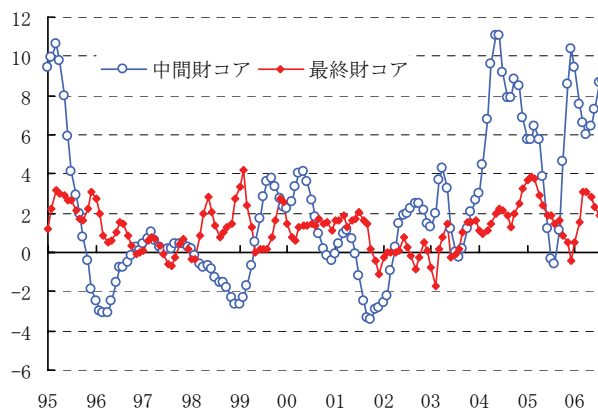
(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

コアは前月比▲0.4%と市場予想に反し下落

06年8月の生産者物価(最終財)は、前月比+0.1%と市場予想の同+0.3%を下回った。食料品が同+1.4%とプラスに転じたもののエネルギー価格が大幅に鈍化した。変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、新型モデルの値下げによる自動車価格の下落によって同▲0.4%と市場予想の同+0.2%に反し下落し、前年同月比でも+0.9%と減速した。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率をみると、中間財(コア)が昨年12月をピークに5月まで低下傾向を辿ったため、4ヵ月程度遅れて影響を受ける最終財(コア)は8月に同+0.5%(同+1.9%)と鈍化した後、9月も低下すると予想される。加えて、2004年以降中間財と最終財での変化率は大きく乖離しており、競争の激化や生産性の向上等を背景に、川中である中間財から川下である最終財への波及は限定的なものにとどまっていることから、最終財(コア)は落ち着いた状態にあると判断される。

(%) 生産者物価(最終財)の推移
(3ヶ月移動平均、3ヶ月前対比年率)



**資本財、消費財コア
ともに下落幅拡大**

最終財段階でのカテゴリー別の動向をみると、食品関連では生卵、加工七面鳥、果物、ソフトドリンク、加工野菜・果物等の上昇によって、食品価格は前月比+1.4%（前月同▲0.3%）とプラスに転じた。

エネルギーは前月比+0.3%（同+1.3%）と減速した。ヒーティングオイルが同+0.7%（同▲2.7%）とプラスに転じ、天然ガスが同+1.6%（同+0.9%）と加速した。一方、家庭用電力が同+1.3%（同+1.8%）と鈍化し、ガソリンが同▲2.2%（同+0.7%）と下落した。

消費財（エネルギー・食料品を除く）は前月比▲0.5%（前月同▲0.3%）と下落幅が拡大した。家庭用電化製品（8月同▲1.0%、7月同▲2.0%、6月同▲1.5%）のマイナス幅が縮小したもの、乗用車価格（8月同▲2.6%、7月同▲0.8%、6月同+0.9%）のマイナス幅が拡大した。

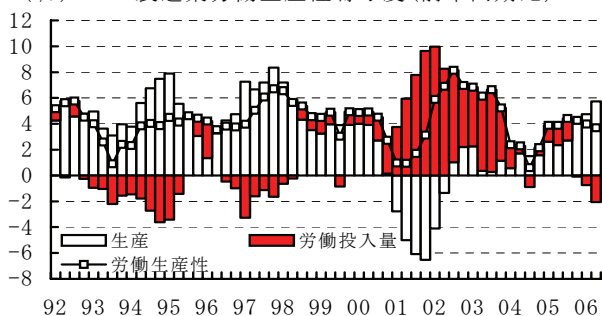
資本財は前月比▲0.3%（同▲0.2%）と下落幅を拡大した。変圧器・発電機がプラス幅を縮小、競争の激しいコンピューター、軽トラック（同▲3.4%）がマイナス幅を拡大したことに加え、船舶、X線・電子医療機器が下落に転じた。

生産者物価（最終財）コアは前月比で緩やかな上昇にとどまる公算

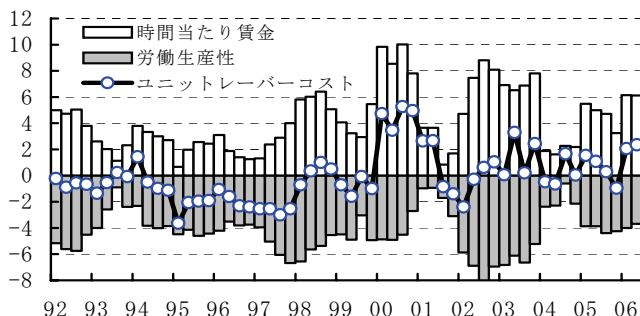
世界的な景気減速懸念、ガソリン需要期の終了によって供給不足懸念が後退し商品価格、エネルギー価格が下落している。この動きを受け、中間財（コア）に2ヵ月程度先行する仕入価格指数（ISM製造業景気指数）が8月に低下していること、川上でのインフレ圧力を示す原材料（コア）が3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比率で8月に+29.6%（前月+50.6%）と減速したことから中間財コア（8月同+8.8%）の上昇ペースは鈍化しよう。

このようなもと、製造業では①売上の増加による数量効果、②情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、③利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられ、価格競争が激しいなか生産者物価（最終財）コアは前期比で緩やかな上昇が続こう。

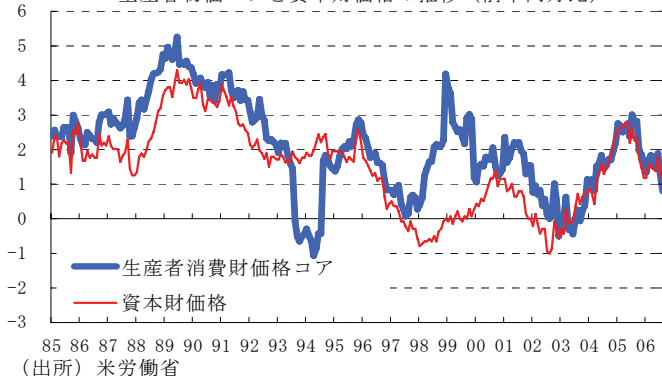
(%) 製造業労働生産性寄与度(前年同期比)



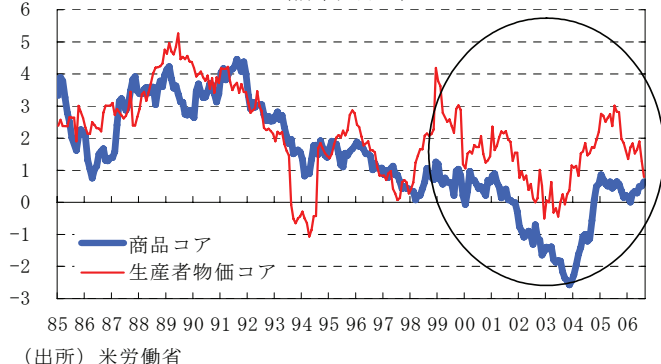
(%) 製造業ULCの要因分解(前年比)



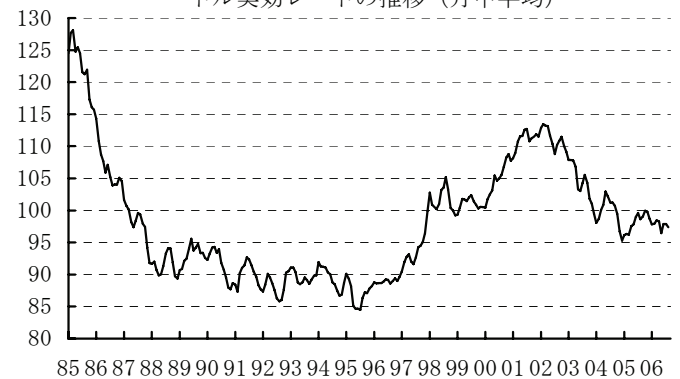
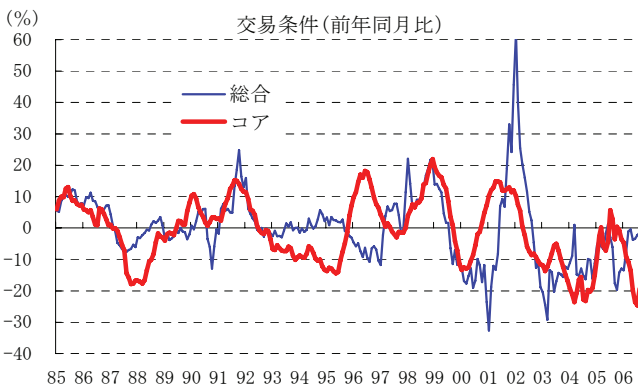
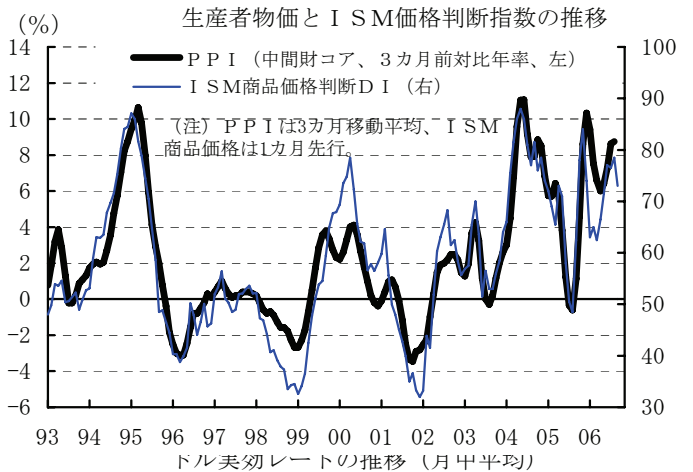
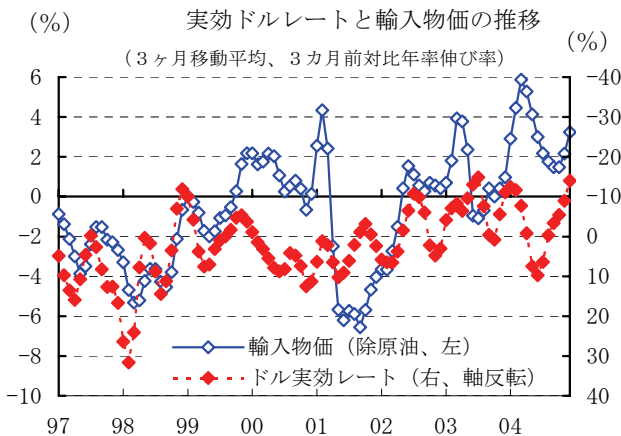
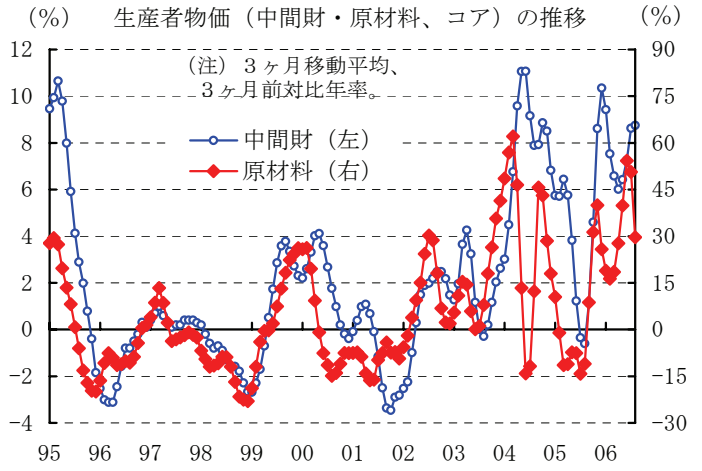
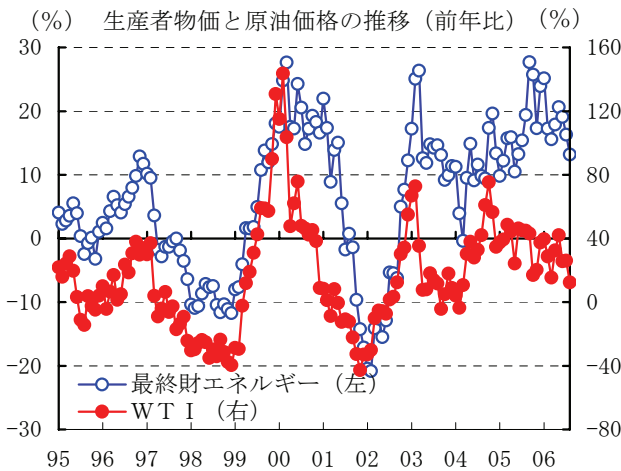
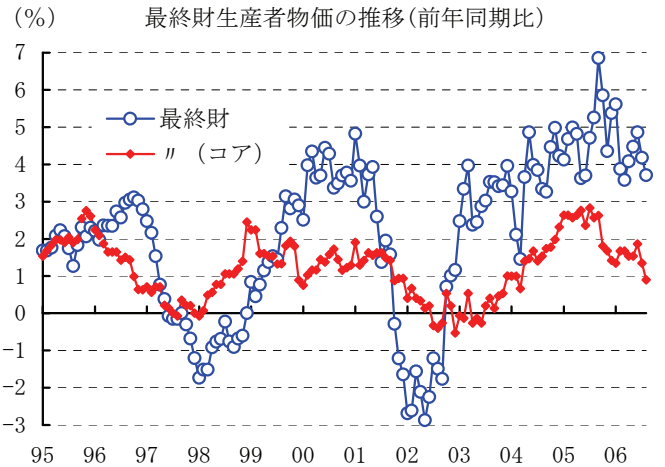
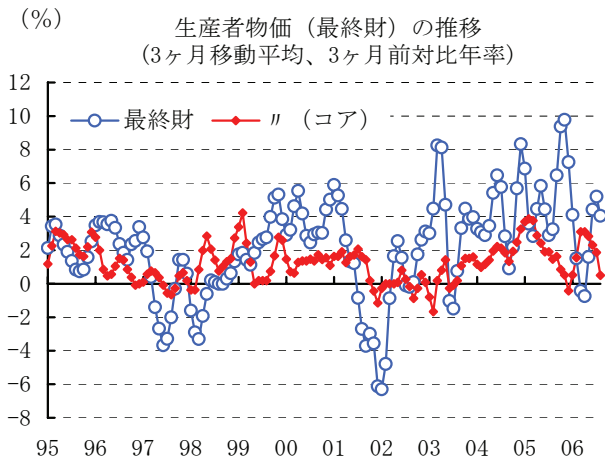
(%) 生産者物価コアと資本財価格の推移(前年同月比)



(%) 生産者消費財物価コアと消費者物価商品コア(前年同月比)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。